

当尾地域力創造プラン (素案)

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会



■当尾地域(概要)

木津川市の当尾地域は、市の南東部に位置し、JR加茂駅から約5kmの範囲に位置する中山間地域です。

この地域は、市内はもちろん京都府南部でも有数の観光地として年間を通して多くの来訪者があります。

これら来訪者の多くは、当尾地域でも南部に位置する国宝等を有する「浄瑠璃寺」をはじめ、あじさい寺として名高い「岩船寺」、また両寺をつなぐ「石仏の道」を目的に来られているのが現状です。

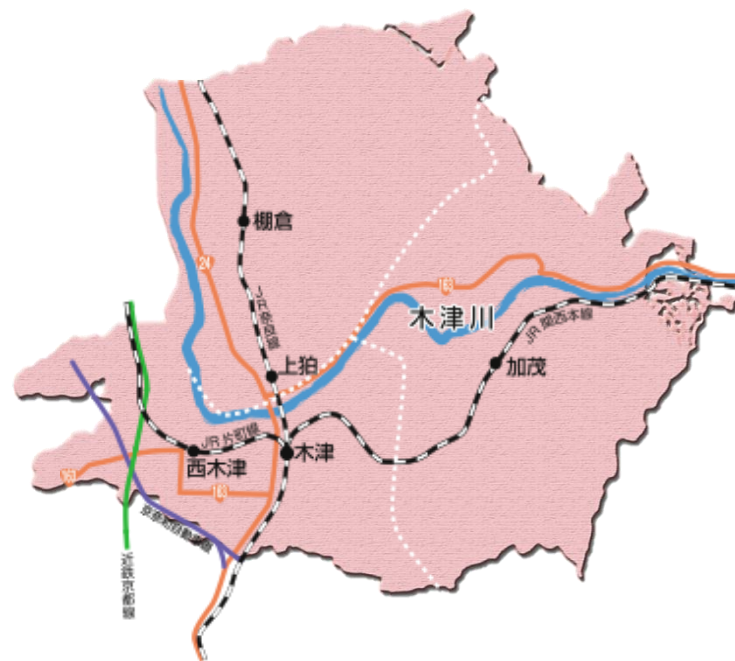
この地域の歴史は中世にさかのぼり、奈良に近いことから、興福寺や東大寺の影響を強く受けたとされ、現在の浄瑠璃寺や岩船寺界隈は小田原と呼ばれ、興福寺の別所として寺院や修行場が散在し、地域の豊富な文化財の多くは、この時代に形づくられました。

次に地名である当尾は、最初「塔尾」として登場します。浄瑠璃寺・岩船寺の三重塔をはじめ、隋願寺廃寺の三重塔のほか、岩船寺の十三重石塔や五輪塔なども入れると塔の数ははかりきれません。「当尾」という地名は、塔の多い丘陵ということからついたとされています。

また石仏の道に代表される、石仏や石塔も魅力で、鎌倉時代後期から室町時代に造立された、繊細で芸術性の高い石仏が多く点在しています。

道端の巨石に彫られた磨崖仏は、数百年を経た今日もおお、訪れた人々の心をなごませてくれています。

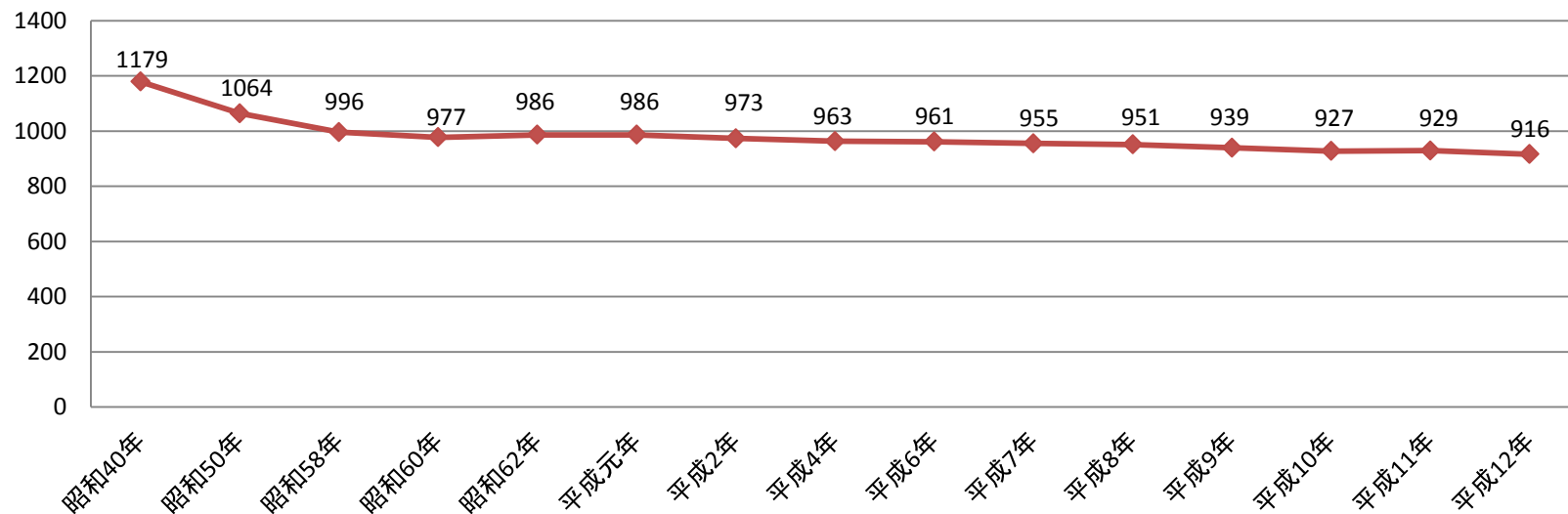
これらの歴史的価値をはじめ、地域の方の生業として受け継ぎ・維持されてきた里山の環境は、「美しい日本の歩きたくなる道500選(2004年)」「美しい日本の歴史的風土100選(2007年)」にも選ばれ、今日に至っています。



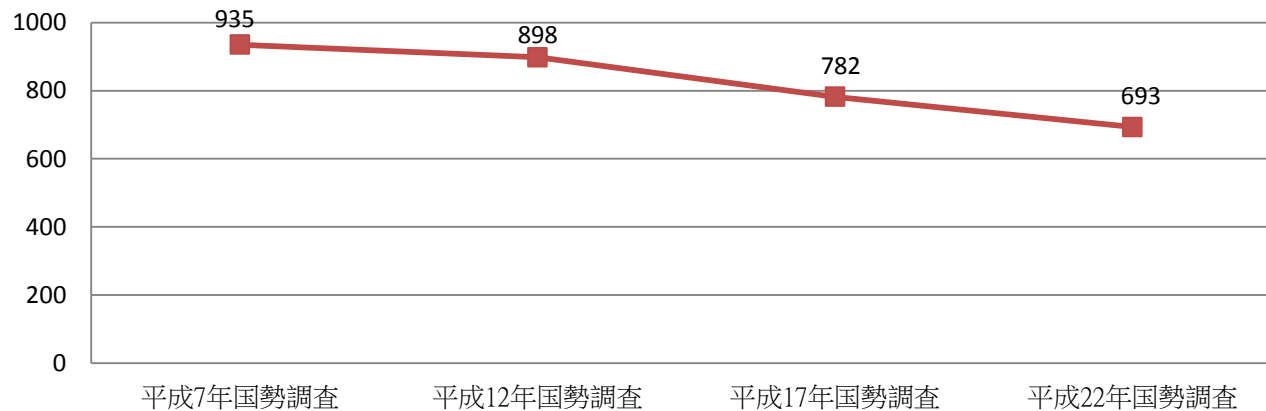
■人口から見る現状1

昭和58年以降は減少傾向にあるものの、ほぼ横ばいであるが、平成12年以降は減少している。

●グラフ1: 昭和40年～平成12年の人口推移(住民基本台帳から)

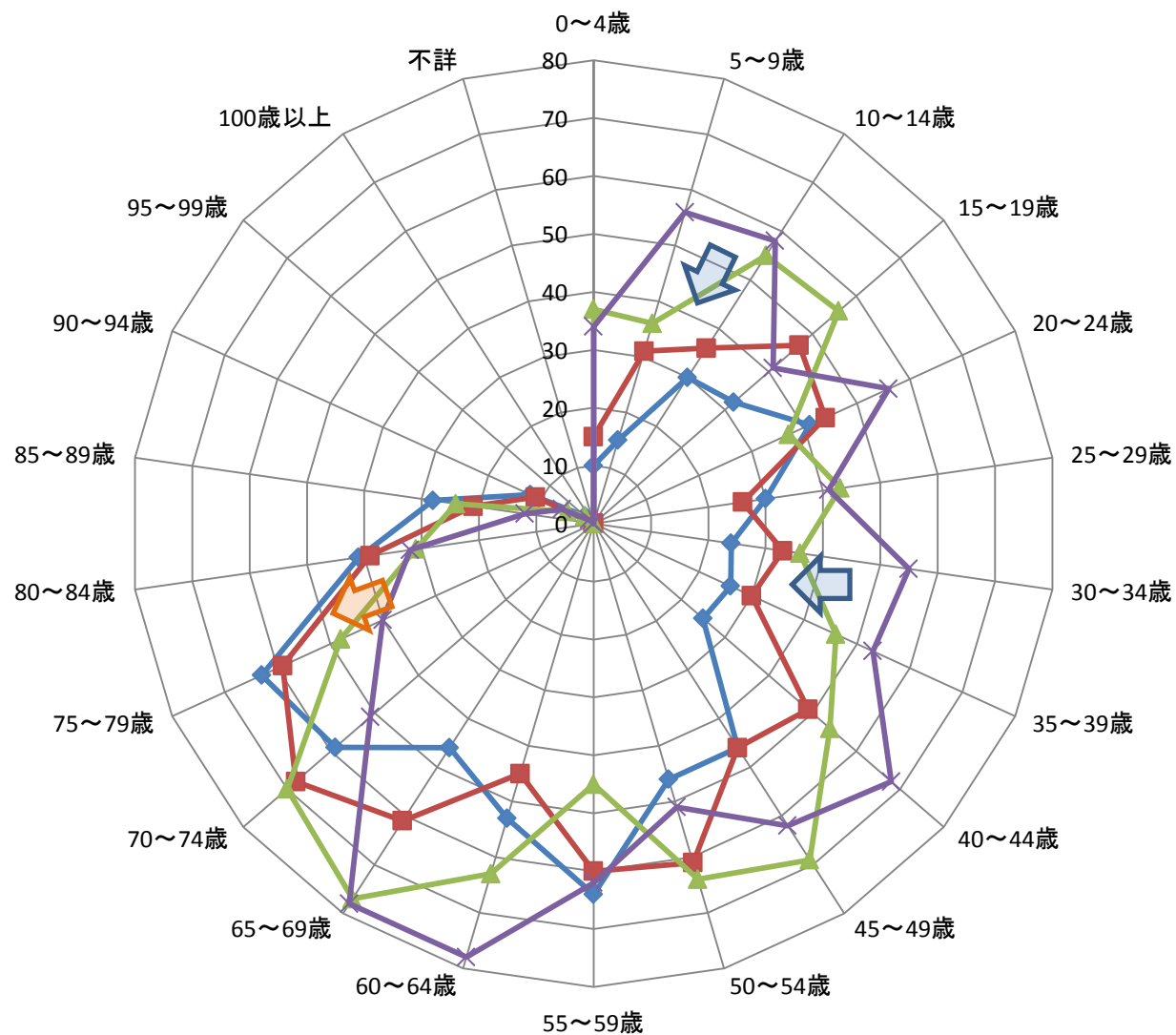


●グラフ2: 平成7年～22年の推移(国勢調査 小地域集計(町別集計)結果から)



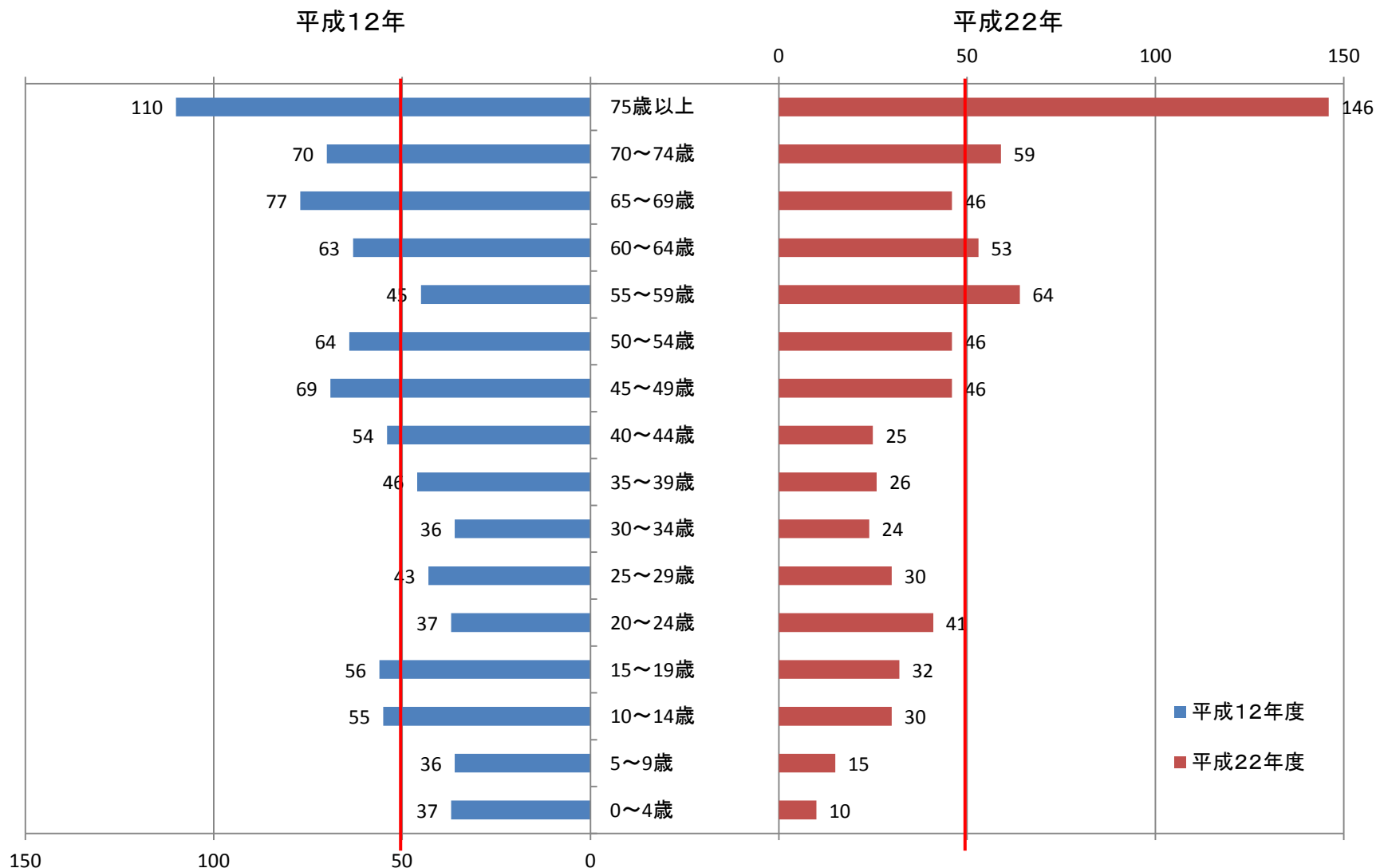
■人口から見る現状2

- グラフ3: 平成7年～22年の年齢別人口(国勢調査 小地域集計(町別集計)結果から)
少子高齢化が顕著になっている。



■人口から見る現状3

- グラフ4: 平成12年と22年の年齢別人口比較(国勢調査 小地域集計(町別集計)結果から)
10年を比較すると、高齢化と共に、地域人口がほぼ全年齢別において減少傾向にある。



■コンセプト

テーマ：魅力再発見 今ある「モノ」を「宝」に

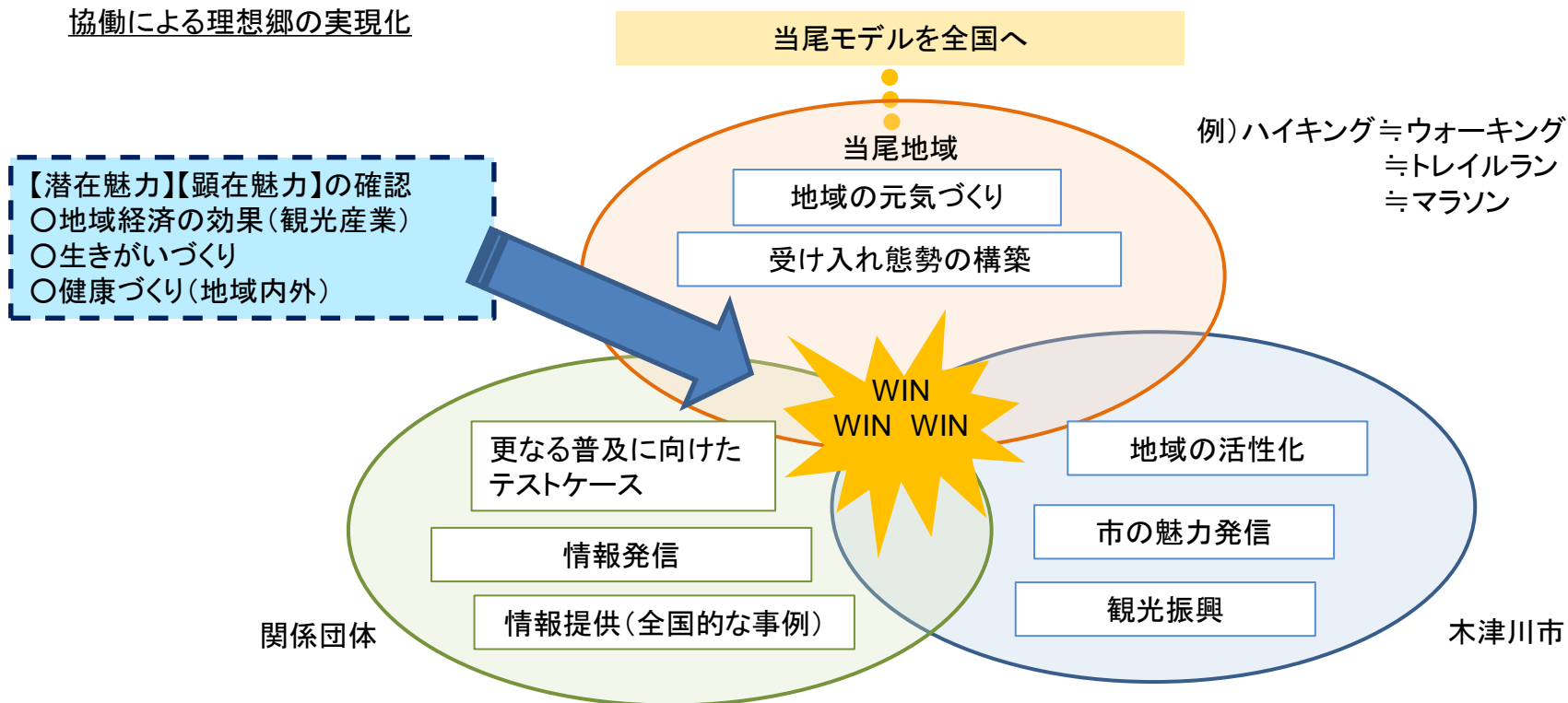
当尾地域には、これまでから地域により守られてきたものが多くあるものの、高齢化等の要因により、維持することが厳しい現状を迎えている。

しかしながら守られ・育んできた、地域の「今あるもの＝宝」に注目すれば、当尾以外の方からは、日々の暮らしで体験できない魅力を見つけることができることから、新たに何かを生み出すのではなく、今までの財産から新たな魅力を創り出すことが、地域力の活性化につながると考えるものである。

また、来訪者のためだけに、何かをするのではなく、地域のために、継続して成せることが、最終的に来訪者のためにもなるシステムを創り出すことが必要となる。

観光産業は、その域内に効果を生み出すことのできる産業であることから、地域力を高めることで、地元雇用や既存生活基盤の充実につながる可能性を含み、将来的な定住促進につながることで地域の持続性確保となるものである。

協働による理想郷の実現化



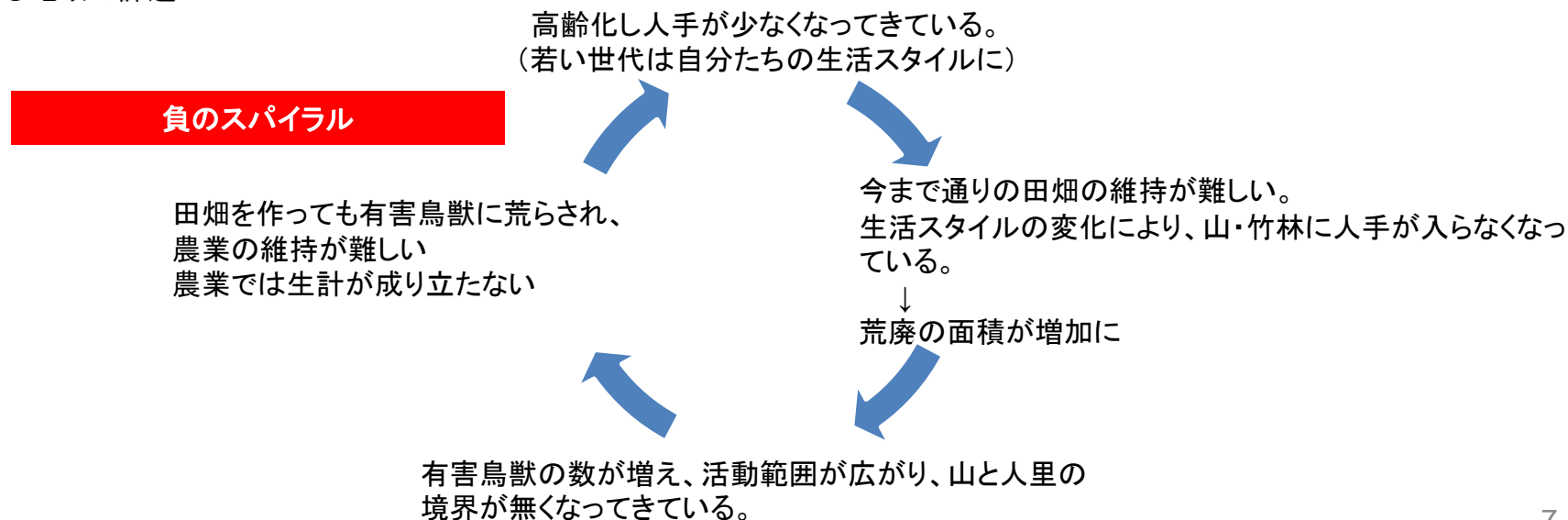
■課題

○現状の認識

主なテーマにおける課題について整理した。

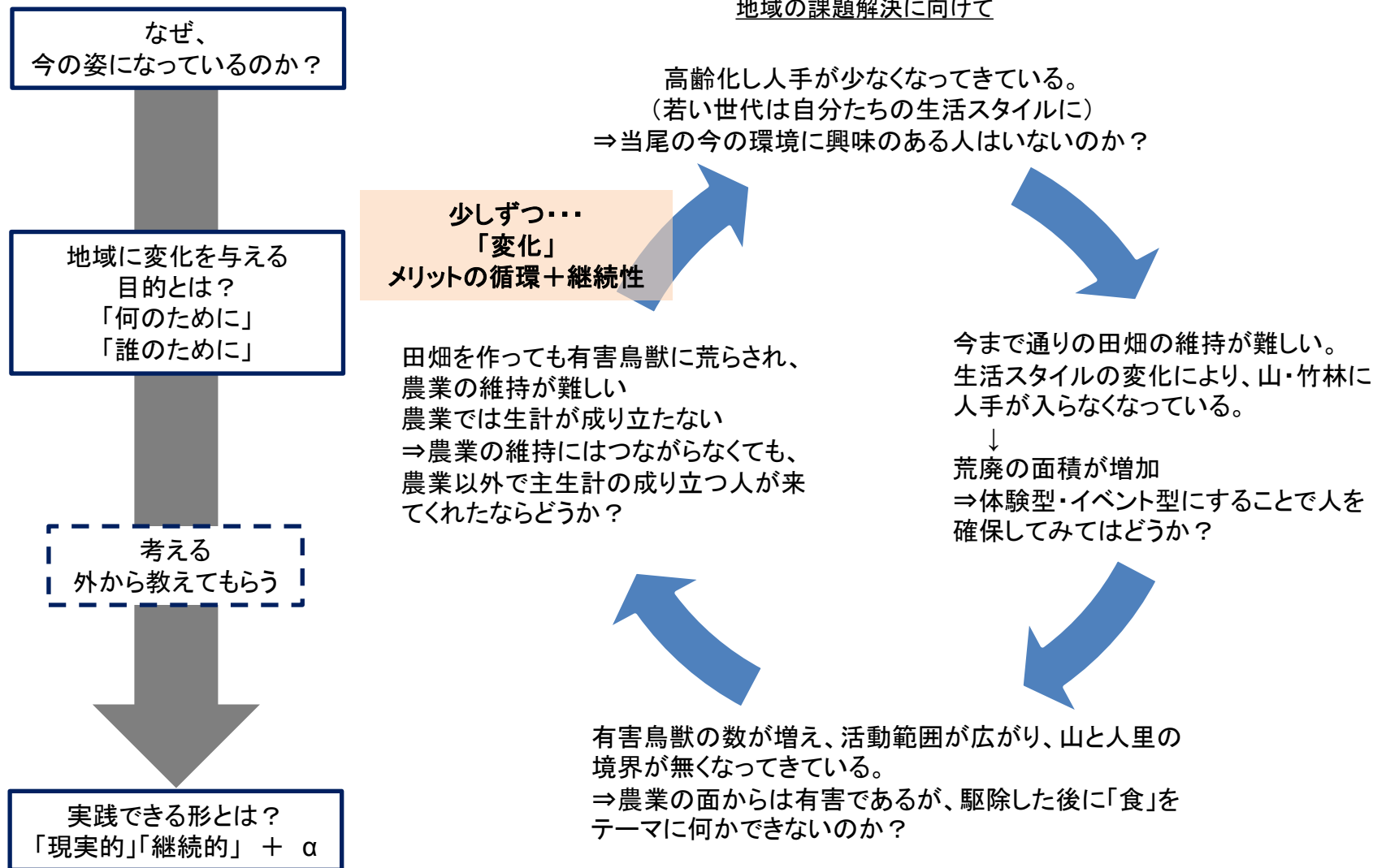
テーマ	魅力 高 ←	→ 魅力 低
道	メインハイキング道以外にも道がある	整備の手が届いていない(マンパワーの不足)
食	吊り店には多くの野菜や漬物などが並ぶ	名物が少ない(アイデアの不足)
農	当尾ごぼうなど地元ブランドがある	高齢化・担い手不足(継承者・マンパワーの不足)
自然	来訪者には癒しの空間になっている	里山を失いつつある(マンパワーの不足)
歴史	国宝級だけでなく野仏がある	奈良・京都に比べて知名度が低い(情報発信の不足)
人	ノウハウを持った人材(高齢者)が多い	次世代で担い手となる人が少ない(継承者・マンパワーの不足)

○地域の課題



■課題

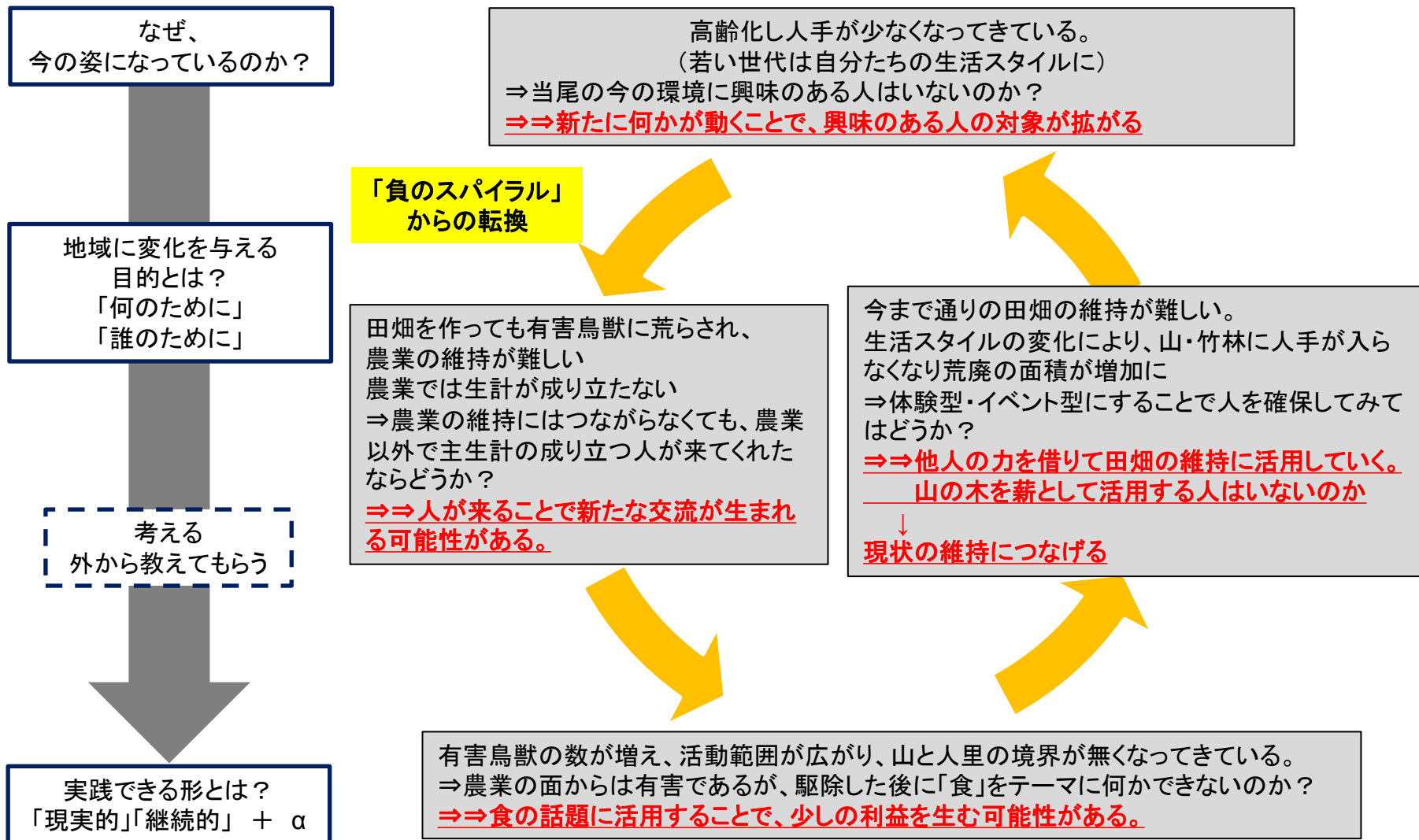
○課題への対応



■ 課題

○ 課題への対応

地域の転換へ



■取組(課題への対応)

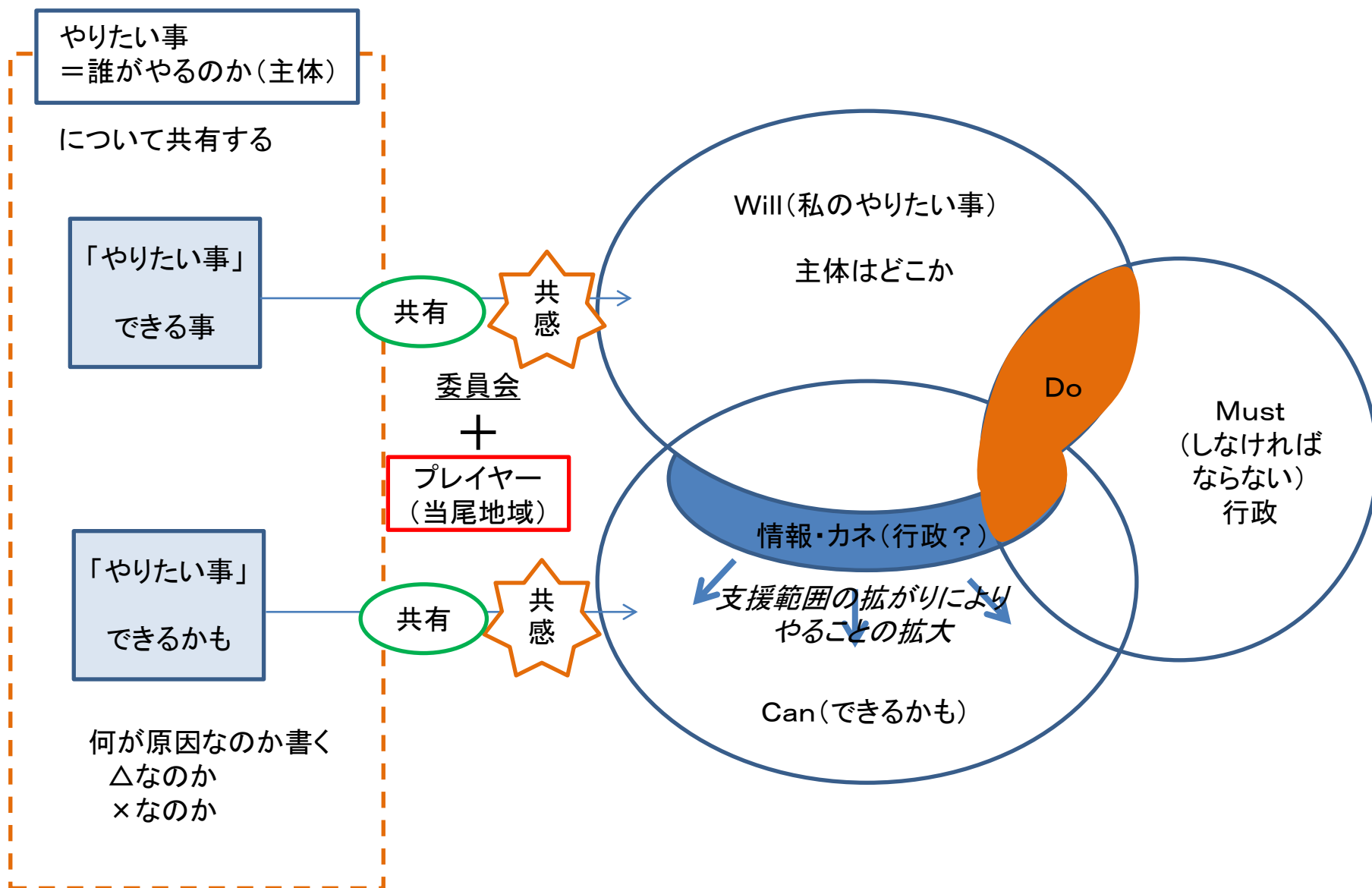
テーマ:道・歴史 ～スポーツ(体を動かす＝健康づくり)～

現状	当尾地域には、浄瑠璃寺・岩船寺・石仏の道などを目的として多くのハイキング客が訪れているものの、これらの文化財等は南部に集中しており、当尾の郷会館のある中部や、森八幡宮や木津川アート2012での作品が残る北部地域といった、地域全体を回遊するに至っていない。また農林作業のために用いてきた道も、担い手不足により徐々に失われつつある。
目的	人を呼び込むことにより荒廃を改善する。 人が入らず道が消滅していき、人の活動面積の減少につながることで、有害鳥獣等の活動面積の拡大につながっていることから、地域内外の人が入ることで「道」を維持することにより現状からの脱却を図る。
取組方針	既に地域内には年間を通じてハイキングをはじめ「歩く」ことを楽しむことのできる環境がある。 また、近年は山道などを活用したトレイルランニングなど、「走る」ことをテーマとしたスポーツも活発であることから、「歩」+「走」を組み合わせ、地域の特色である、文化財等の歴史的資産を活用し、道をつなげることで、地域全体を回遊できる仕組みの構築を目指していく。

テーマ:農・食・自然

現状	人口の高齢化・過疎化に伴い、農林業や地域の特色であり観光客にも人気の吊り店についても従事者が減少し、担い手も不足している。あわせて、人の活動面積の減少により里山環境の維持バランスも崩れ、有害鳥獣の被害も大きくなってきている。また人口減少により空家も見受けられる。
目的	既存のノウハウを活かし人同士のつながりを作ることで現状を改善する 地域への魅力を感じる人に対して積極的なきっかけづくりを行うことで、最終的には定住化につなげることで現状からの脱却を図る。
取組方針	農林業に関して、これまで培ってこられた、個々のノウハウはある。 このノウハウを引き継ぎ伝えていくため、地域内外の「人」と「人」とが繋がり交流できる環境づくりを進め、個々だけではなく、地域として今後のあり方について、共感し共有してもらうことで、将来的な定住化など地域の持続性に向けた仕組みの構築を目指していく。

■取組の具体化に向けて



■取組(具体的な取組①)

取組内容	やりたい事	
	できる事	できるかも
・地域内の道を活用したコースづくり 地域内外の方の健康づくりをはじめスポーツ観光を活用し、「歩」だけでなく「走」にも利用できる道を整える。		
・マップやSNSを活用した地域やコースのPR		
・コースの維持		
・案内板の設置		
・文化財や自然観察など特性テーマのツアーの実施		
・当尾の郷会館や加茂青少年山の家、観光トイレなど既存施設の維持および利活用		
・道路環境の改善		
・イベントの実施		
・大学・企業をはじめ様々な主体との連携強化 企業CSR 大学フィールドワーク・フィールドスタディ・インターンシップ(就業体験)		
・農業体験の環境づくり		
・アートなど、従来環境と異なる分野の活用		
(次ページへ続く)		

■取組(具体的な取組②)

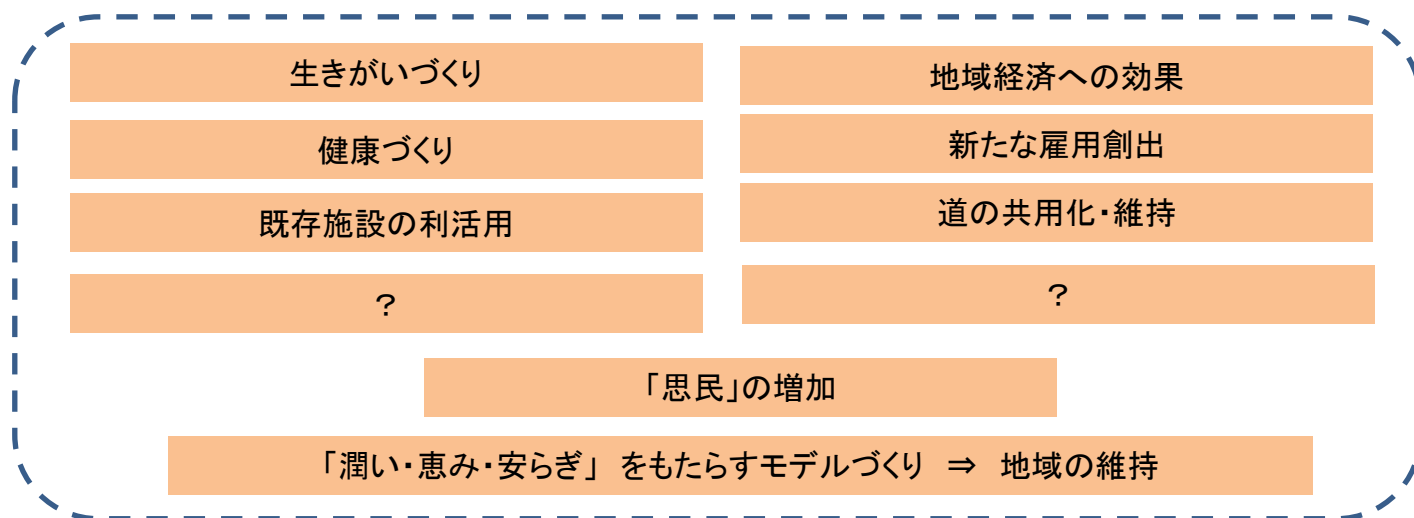
取組内容	やりたい事	
	できる事	できるかも
・耕作放棄地等での里山景観維持の取り組み 例)レンゲ畑		
・地元野菜など食に関するマルシェの開催 消費拡大の取り組み		
・人手確保のための体験型環境整備 農業体験		
・田舎暮らしを求める方への田畑の貸出し・体験(農業で培ったノウハウの提供)		
・地域の魅力を求める方への空家の利活用、オーナー・地元の方とのマッチング		
・有害鳥獣も含め「食」による魅力の創造		
・気軽に野菜等を販売できる環境づくり		
・農家民宿等の新たな定住化の取り組み		

■モデル例

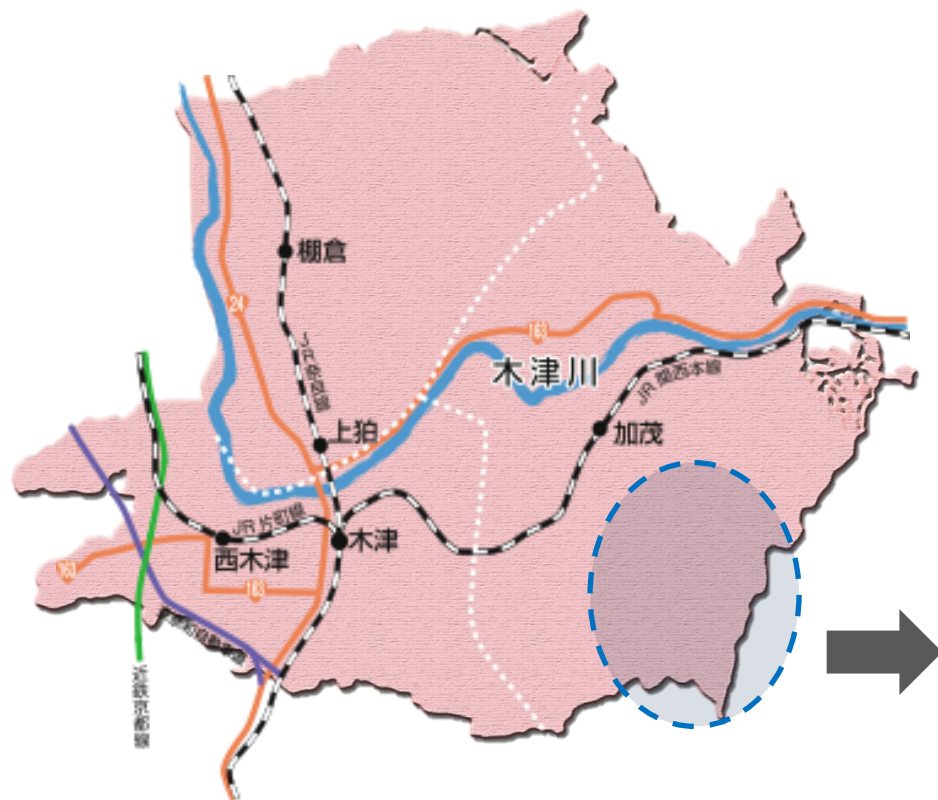
自然・文化財を活用したモデル	農業を活用したモデル	山を活用したモデル
モデルルートの充実:道の発掘	人が必要なときに農業体験の活用	木を薪として活用
↓	↓	↓
ハイキングだけでなく、他のスポーツ(例:トレイルラン 等)との共有	来た人は自然に癒され恵み(例:野菜)を受ける	森林の里山化
↓	↓	↓
人による情報拡散	野菜販売による利益化・貸農園	薪の販売による利益化
↓	↓	↓
地元消費の拡大	定住化につながる可能性	集積基地として既存施設の活用
↓	↓	↓
来訪者数の増 交流・情報発信機会の拡大	担い手の確保 荒廃化の抑制	森林の里山化(=地域資産価値の向上) 木からの利益化(=個人資産の向上)



イメージ



■参考 位置図



木津川市全体図

